

# 令和 8 (2026)年度採用分海外特別研究員・海外特別研究員－RRA

## 申請書提出に当たっての事務担当者用チェック要領【訂正版】

申請書類の提出は電子申請システムでの提出（送信）のみとしています。

申請書類を取りまとめ本会に提出（送信）いただくに当たり、例年、申請資格不備により選考の対象外とせざるを得ない案件が発生しております。各機関におかれましては、今一度、精査していただくようお願いします。

申請書類の提出（送信）方法等、特に注意していただきたい事柄を以下に掲げますので、提出前に確認してください。

申請者が「電子申請システム」内で一度「提出」の処理をした「申請書情報」の記載内容を訂正する場合、事務担当者は「電子申請システム」内で当該申請者の「申請書」の「却下」の処理をします。その後、申請者本人に「電子申請システム」上の情報を訂正させ、その後再度「提出」の処理をさせていただきます。

また、応募状況が「学振受付中」かつ本会受付期間内である場合に限り、本会に提出した申請リストの確定を解除することができます。申請リストの確定を解除すると、本会に申請リストを提出する前の状態に戻ります。

### 1. 申請書類の提出方法

申請書類の提出に当たっては以下の2種類を行っていただく必要があります。それぞれについて期限が設定されています。

#### (1) 申請書類の電子申請システムによる提出（送信）【Web上の送信のみ・紙媒体の提出は不可】

- ・申請書類の構成は下表のとおりです。
- ・申請書類全てが揃わなければ、申請することはできません。
- ・申請リストの確定を行うことにより、本会へ申請書類が提出（送信）されます。  
※郵送等による紙媒体の申請書類は受理しません。（海外特別研究員-RRA 申請に係る証明書類を除く。

以下（2）参照。）

- ・本会への申請書類の提出（送信）期限は **2025年5月12日（月）17:00（日本時間）【厳守】** です。

表：申請書類の構成及び作成方法

	内容	作成方法	作成者
申請書情報	氏名・研究課題名・派遣先等の基礎的な必要情報	電子申請システムにおいてWeb入力※	申請者
申請内容ファイル	研究計画・外国で研究することの意義等	本事業ウェブサイトから取得したWord等で作成後、電子申請システムへ登録	申請者
受入意思確認書	海外における受入研究者の受入に関する意思の確認	電子申請システムにおいてWeb入力 ※ID・パスワードは、申請者が	海外における受入研究者
評価書	申請者の研究内容に精通している研究者1名による評価	作成依頼処理をすることで、電子申請システムより作成者へEmailにより通知	評価書作成者

※「海外特別研究員申請者 ⑦学歴、⑨博士課程、⑩研究・職歴等別紙」、「海外特別研究員－RRA 申請者 ⑧学歴、⑨博士課程、⑩研究・職歴等別紙」について

申請書 1 ページ「⑦学歴 (学部、修士)、⑨大学院博士課程 (出身または在学)、⑩研究・職歴等」(RRA は「⑧学歴 (学部、修士)、⑨大学院博士課程 (出身または在学)、⑩研究・職歴等」)欄にて、必要事項を記載できなかった場合、その他特筆すべき事項 (出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む)がある場合は、本事業ウェブサイトよりダウンロードした様式「海外特別研究員申請者 ⑦学歴、⑨博士課程、⑩研究・職歴等別紙」(RRA は「海外特別研究員－RRA 申請者 ⑧学歴、⑨博士課程、⑩研究・職歴等別紙」)(Word 等)に記載し、電子申請システムへ登録してください。

(2)「証明書 (海外特別研究員－RRA のみ)」の提出【紙媒体または電子媒体による提出】

- ・海外特別研究員－RRA の申請がある場合は、申請書類の提出 (送信) とは別に、各申請者の「証明書」を提出してください。
- ・本会への書類の提出期限は、2025 年 5 月 12 日 (月)～5 月 16 日 (金) 17:00【必着】です。

## 2. 申請書のチェック項目

1) 申請資格等を満たしていることの確認

(ア) 博士の学位等について

### 【海外特別研究員】

令和 8 (2026) 年 4 月 1 日現在、博士の学位を取得後 5 年未満の者 (令和 3 (2021) 年 4 月 2 日以降に学位を取得した者。令和 8 (2026) 年 4 月 1 日までに博士の学位を取得することが見込まれる場合 (学位取得見込み) も申請できる。)

### 【海外特別研究員 (採用予約)】

令和 8 (2026) 年 4 月 1 日現在、次のいずれかの我が国の大学院博士課程に在籍し、令和 8 (2026) 年 4 月 2 日から令和 9 (2027) 年 4 月 1 日までに博士の学位を取得する見込みの者。

- 1) 区分制の博士課程後期第 2 年次又は 3 年次の年次相当 (在学月数 12 か月以上 36 か月未満) に在学する者
- 2) 一貫制の博士課程第 4 年次又は 5 年次の年次相当 (在学月数 36 か月以上 60 か月未満) に在学する者
- 3) 後期 3 年の課程のみの博士課程第 2 年次又は 3 年次の年次相当 (在学月数 12 か月以上 36 か月未満) に在学する者
- 4) 医学、歯学、薬学又は獣医学系の 4 年制の博士課程第 3 年次又は 4 年次の年次相当 (在学月数 24 か月以上 48 か月未満) に在学する者

### 【海外特別研究員－RRA】

令和 8 (2026) 年 4 月 1 日現在、博士の学位を取得後 10 年未満の者 (平成 28 (2016) 年 4 月 2 日以降に学位を取得した者。令和 8 (2026) 年 4 月 1 日までに博士の学位を取得することが見込まれる場合 (学位取得見込み) も申請できる。)

(イ) 職歴について

令和 8 (2026) 年 4 月 1 日現在、大学等研究機関<sup>※</sup>の任期の定めのない常勤研究職の在職期間が過去通算して 5 年未満の者

※科学研究費補助金取扱規程 (文部省告示) 第 2 条に規定されている以下の研究機関とします。

- a) 大学及び大学共同利用機関
- b) 文部科学省の施設等機関のうち学術研究を行うもの
- c) 高等専門学校

d) 文部科学大臣が指定する機関

(ウ) 外国人の申請について

日本に永住を許可された外国人は申請可能です。在留資格が「留学」、「日本人の配偶者」等の場合は、申請できません。申請に当たっては永住を許可されていることの証明書類の添付は不要ですが、採用内定後の派遣開始手続時に本人に対し提出を求めるため、申請書を本会に提出する前に在留資格を確認してください。

2) 「⑩研究・職歴等」について

貴機関に所属する研究者のうち、「⑪ (RRA は⑭) 現在の所属機関」「任期の有無」欄で「無」に該当する者については、就職日に日付が記入されているかを確認してください。

3) 「⑪ (RRA は⑭) 現在の所属機関」について

職名、任期の有無が正確に記入されているかを確認してください。

4) 「⑫ (RRA は⑮) 申請時点における身分」について

貴機関として機関申請対象者と認識している者以外が (1) 我が国の大学等学術研究機関に所属する研究者を選択していないか確認してください。

5) 「⑰ (RRA は⑳) 現在の受入研究者」について

所属機関、部局、職名が正確に記入されているかを確認してください。

6) 「⑱ (RRA は㉑) 出身大学院の研究指導者」について

(7) 出身大学院での研究指導者とは、区分制でいう、大学院博士課程在学当時の研究指導者を指します。区分制でいう、大学院修士課程ではありませんので注意してください。

(4) 所属機関、部局、職名が正確に入力されているか確認してください。

7) 「⑲ (RRA は㉒) 海外における受入研究者」について

所属機関、部局、職名が正確に記入されているか確認してください。

#### 【申請書情報のチェック箇所】

申請書情報 (Web 上で入力) 部分の必須項目、桁数チェック等の基本的なチェックは電子申請システム上で行っています。上述の注意事項に留意した上で、申請書情報のチェックは下記の項目について行ってください (該当箇所は、次ページの図を参照)。

#### A: 申請者氏名

登録名が表示されているか確認してください。(「電子申請システムによる申請手続の概要 (申請機関担当者用)」P. 11 参照) 戸籍名は機関担当者が登録しますが、登録名及びローマ字表記は申請者が電子申請システムで入力します。

#### B: 現在の所属機関・申請時点における身分

所属機関における「職名」及び「任期の有無」に誤りがないかを確認してください。

また、申請時点における身分のうち「(1) 我が国の大学等学術研究機関に所属する研究者」については、所属機関が機関申請対象者であると認識している場合にのみ選択可となります。機関申請の対象者ではないにもかかわらず、申請者個人の判断で (1) を選択している場合は、当該申請者についてご指導ください。

#### C: 「現在の受入研究者」「評価書作成者」等の研究者情報

貴機関に所属の研究者が記入されている場合、氏名や所属部局、職名等が正しく記入されているか確認してください。

#### 【申請内容ファイル・受入意思確認書について】

- ・申請内容ファイル: PDF 変換後、文字化けや図表について申請者が確認するよう御指導ください。  
事務担当者の方における確認は不要です。
- ・受入意思確認書: 事務担当者の方における確認は不要です。

申請書1～3ページの「申請書情報」は、「電子申請システム」より作成してください。

（申請書情報） 令和8年度採用分 海外特別研究員 申請書 第 版

審査区分	① 書面審査区分	
	② 小区分名	
	③ 小区分コード	④ 専門分野

⑤ 研究課題名 (和文) \_\_\_\_\_  
(英文) \_\_\_\_\_

1. 申請者情報等 (所属機関コード: \_\_\_\_\_)

⑥ 氏名 登録名 (フリガナ) (姓) (名) (漢字等) (姓) (名)

⑦ 学歴 (学部、修士) \_\_\_\_\_

⑧ 申請時点における学位

入学年月	(西暦) 年 月 日 入・進学
編・転・再入学時の在学期間換算	
大学名	国内の大学 / 海外の大学
研究科名	
課程種別	
修了・退学等	(西暦) 年 月 修了 / 単位取得済満期退学 / 中途退学
学位	(西暦) 年 月 日
学位付記	
専攻分野	
休学期間の合計	
博士在学期間累計	

就職日 (大学等研究機関の任期に定めのない常勤研究員) (西暦) 年 月 日

⑨ 学歴、⑧ 博士課程、⑩ 研究・職歴等別紙 有 / 無

⑪ 現在の所属機関

所属機関名	B
部局名	
職名	任期の有無 無 / 有

⑫ 申請時点における身分 (アルファベット)  
(1) 我が国の大学等学術研究機関に所属する研究者  
(2) 我が国の大学等学術研究機関に所属する研究者を志望する者

⑬ 海外特別研究員終了後の進路

B

⑭ 派遣を希望する期間 (西暦) 年 月 日 ~ (西暦) 年 月 日 (2年間)

⑮ 派遣国 \_\_\_\_\_

⑯ 海外における受入の大学等研究機関での身分

⑰ 現在の受入研究者

氏名	(フリガナ) (姓) (名) (漢字またはローマ字) (姓) (名) 外国人の場合、ローマ字入力。
科研究員研究者番号	
所属機関名	国内の機関 / 海外の機関
部局名	
職名	

C

⑱ 出身大学院の研究指導者

氏名	(フリガナ) (姓) (名) (漢字またはローマ字) (姓) (名) 外国人の場合、ローマ字入力。
所属機関名	国内の機関 / 海外の機関
職名	

C

⑲ 海外における受入研究者

氏名	(FAMILY NAME) (First Name) (Middle Name) (英文) 海外受入研究者が日本人の場合、入力して下さい。 (漢字等) (姓) (名)
職	(和文)
受入機関名	(種別) 大学 / 国公立試験研究機関 / 非営利の民間研究機関 (英文)
受入部局名	(和文)

⑳ 評価書作成者

氏名	(フリガナ) (姓) (名) (漢字またはローマ字) (姓) (名) 外国人の場合、ローマ字入力。
所属機関名	国内の機関 / 海外の機関
部局名	
職名	

C

㉑ 研究活動における主な使用言語

説明	
客観的な指標	(次の項目のうち、申請者がチェックを付した項目が本欄に記載されます) ・ 主な使用言語の留学検定試験結果 - 試験名称 1 : _____ - 級 / スコア 1 : _____ - 取得年月日 (西暦) 1 : ●年●月●日 - 試験名称 2 : _____ - 級 / スコア 2 : _____ - 取得年月日 (西暦) 2 : ●年●月●日 ・ 国際学会において、主な使用言語での発表経験の有無、回数 ・ 主な使用言語での論文執筆経験の有無、数 ・ 主な使用言語圏への留学経験の有無、内容 ・ 主な使用言語の日常的な使用頻度 - 研究室で日常的に使用している - 主な使用言語を用いてフィールドワークを行っている - 主な使用言語を用いて共同研究を行っている 等 ・ その他、客観的に相応の語学能力を有しており、外国での研究活動に支障がないことがわかる事例

㉒ 海外における研究・留学歴

訪問先: 目的: _____
期間: (西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
訪問先: 目的: _____
期間: (西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
訪問先: 目的: _____
期間: (西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日

㉓ 海外特別研究員制度における支援の必要性

【過去に海外での研究経験を有する場合又は既に海外で研究に従事している場合のみ記入】